



第32回 であいの文化祭

10月27日(土)・28(日)に、恒例の三川地区公民館の文化祭が行われました。三川地区公民館で活動しているサークルや地域の子も達等が日頃の学習成果を発表しました。

天気は良くありませんでしたが、約1,800人の方が足を運んでいただきました。

みなと校区では、みなと小学校の4年生の児童がよさこいソーラン、右京中学校の混声コーラスがさわやかな歌声を披露しました。今年で3回目となる右京町公民館の館長さんが率いるカウパンチャーズは、カントリーソングで、文化祭を盛り上げました。



カウパンチャーズによるカントリーソングの演奏の様子です。

おなじみのカントリーロードやテネシーワルツ等、みんな口ずさんでいました。



みなと小学校児童のよさこいソーランの様子です。

児童たちの元気あふれるパワフルな動きが会場を盛り上げました。やはり、子どもは元気が一番です。



みなと小学校の6年生の日本舞踊です。

大人の学習発表に負けず、華があり会場を沸かせました。また、来年も踊ってくれるかな？ 将来が楽しみです。

生涯青春はつらつ塾「地域塾」 絵手紙教室



天領町1丁目の田代スギノさんは、今年で94歳になりました。現在、ペン習字サークル『山茶花会』でも活動されています。

生涯青春はつらつ塾「マニピ塾」ハーモニカ教室



春の小川、富士の山、おぼろ月夜、里の秋等、おなじみの楽しい曲を受講生の方が無我夢中で練習されています。

ハーモニカ教室の講師は、三川地区公民館で夕方、勤務されている辻英治さんです。日頃から傾聴ボランティアとして活動されています。

「政治学級」に参加して軍艦島に行ってきました！

石炭に関する大牟田の歴史を少し掘り下げて知りたかったので、地区公民館主催の「近代化産業遺産に学ぶ」の講座を受けました。

第5回目の講座では、軍艦島の見学もありました。

軍艦島は閉山後、人が去ったあとの高層建物群は手が増えられることなく、当時のまま荒れるがままの保存になっています。このため、島に上陸すると時間が止まっているような不思議な錯覚に陥ります。

走ればすぐに1週できそうな島に5000人以上住み、鉱山、病院、学校、ダンスホールまであったという説明を聞きながら高層社宅を見ると当時の人々の生活、喜怒哀楽が見えるようでした。当時の雰囲気そのまま封印、保存したような感じさえ受けました。

大牟田は石炭により発展した炭都だったという歴史がある以上、このことを子どもたちに語り継ぐことは大切だと思います。各地に石炭産業の遺産があります。語り継ぐその証として保存したいものです。その保存のあり方はどうか。世界遺産の指定を問わず、市民一人ひとりが考える時がやってきました。(みなと校区 Y. K)



みなと小朝読ボランティア

11月21日みなと小学校にて、みなと小の保護者の方を対象に、朝読書ボランティア「アリスの会」のみなさんによる“おはなし会”が開かれました。

これは、「アリスの会」のみなさんが、毎月子ども達に届けている絵本の世界を保護者のみなさんにも聞いていただき「読んでもらう心地よさ」を感じてもらって、“癒しのひと時を”過ごしてもらおうと企画されました。

今回は、当日みなと小の子ども達に読んだ本の紹介など ゆっくりと6冊ほどの絵本が読まれました。途中ティータイムもあり、絵本の話や日頃の子育ての話に花が咲いていました。

(みなと校区 平本美保)